

# 枚方市立招提中学校 令和5年度 学校運営に係る経営方針及び重点項目等

☆目指す生徒像：学校生活の中に自らの成功体験を発見し、学ぶ喜びを持って、ねばり強く取り組む生徒を育成する。(生徒主導の活動の推進を図る)

- ・自尊感情：自らが小さな成功体験を自覚し、やればできる喜びをもち、日々努力する生徒
- ・継続：成功するまで何度でも挑戦するねばり強さをもった生徒(生徒の失敗を受け入れる環境整備)
- ・人権意識：自己や他者の立場を理解して、ともに学ぶことのできる生徒(善悪の判断・コミュニケーション等)

令和5年度 最重点取り組み項目(3点) ※下線部は特に留意すること

①不登校問題の改善 ~生徒一人ひとりの状況に応じた適切で丁寧な対応~

○目指す生徒像

- ・基本的生活習慣を身につけ、できることから一つずつ取り組むことができる。
- ・学校生活の中に楽しさややりがいを見出し、小さな成功体験を積み重ねることができる。(不登校の改善を図る。)

※教員の取り組み

- ・生徒支援 co、生徒指導主事を中心とした組織的な取り組みを行う。(進捗状況も含めた丁寧な報告・相談・実動)
- ・不登校支援部会の取り組みをさらに充実させ、個に応じた丁寧な指導とともに、組織としての具体的な方策を見出し、不登校生徒の改善を図る。(不登校生徒の減少とともに、新たな不登校生徒を生み出さない取り組み)
- ・不登校支援教室の活用(登校へのファーストステップとしてステップルームを最大限活用する)
- ・関係諸機関や校区小学校との連携(小中連携)を綿密に行い、保護者や家庭への支援を丁寧に実施する。

②学力向上 子どもが主役の学習活動による「個別最適な学び」と「協働的な学び」の実現  
~教師主体の一斉授業からの脱却、「教え」から「学び」への転換~

○目指す生徒像

- ・小さな成功体験の積み重ねで学ぶ喜びがもてる。
- ・iPad等ICT機器を積極的に活用し、学びを深めることができる。(自ら課題解決に向けて取り組む)
- ・自学自習ノートを積極的に活用し、自ら進んで学ぶことができる。(学習への興味を深め、家庭学習を定着させる)
- ・家庭での予習、復習など、自分で考えて学習習慣の定着を図ることができる。
- ・読書活動の楽しさを実感でき、継続して取り組むことができる。  
(朝読書の定着、学校図書館を積極的に活用する)

※教員の取り組み

- ・学力向上担当教員がリーダーシップを発揮し、招提中学校の学力向上を推進する。(その都度、改善を行う)
- ・招提中学校の学力向上プランを元にその都度、指導改善を図る。(年度途中でも取り組みの改善を行う)
- ・教師主体の一斉授業から脱却し、ペア・グループ学習など、自主的な学びを助長する指導方法の改善を図る。
- ・授業時の小さな成功を見逃さず、その都度誉めることで自尊感情を高める。
- ・個別指導の充実を図り、全体的な学力の底上げを行う。(学習に課題のある生徒への興味づけを図る)
- ・iPad等ICT活動の推進を図る。(情報部会、教科部会等を活用して、教員の活用力を高める。)
- ・自学自習ノートの取り組みを推進する。(好事例の掲示や積極的に取り組んでいる生徒の紹介とともに、全体の底上げを行い、学校全体としての取り組みをさらに推進する)
- ・生徒が興味を持って予習、復習等に取り組むための教材の研究を行う。(自己研鑽、教員交流、研修等の活用)
- ・教員の授業改善(日々のOJT、教科会、校外研修、校内研究授業など)の取り組みを推進する。
- ・朝読書の習慣化を図る。(静かに本に向き合う。) 学校図書館等を活用した読書活動の取り組みの推進を図る。

**③体験学習の充実** ～生徒一人ひとりの自尊感情を高め、積極的に取り組む姿勢を養うための取り組みの充実～

○目指す生徒像

- ・日々の体験学習等（総合学習、道徳教育、学級活動、学年活動、学校行事、クラブ活動等）に積極的に参加できる。
- ・自分で考えて取り組み、人と協力する中で自尊感情を高め、学校教育活動に充実感を持つことができる。

※教員の取り組み

- ・総合学習計画を改定し、系統的に取り組んだり、関連を図るなど、学年ごとではなく、学校として統一した方向性を明確にした計画、実践を行う。
- ・体験学習等において、事前学習、本学習、事後学習など、系統的に取り組み、活動の充実を図る。（生徒が主体的に進行するなど、生徒の自治力を高める）
- ・学級活動、学年行事、学校行事等の工夫改善により、集団への帰属意識を高め、自尊感情、人権意識などを育成する。
- ・道徳教育推進教師を中心に生徒の興味・関心・意欲を高める教材や指導方法の工夫を行い、道徳授業の取り組みを推進する。また、学校教育活動全体を通して、道徳教育を推進する。

令和5年度 重点取り組み項目（8点）

**①安全対策** ～日々の学校生活を安全に行うための環境整備と生徒一人ひとりの危機管理能力の育成～

○目指す生徒像

- ・新型コロナウイルス感染症についての状況を把握し、感染防止において自分で考えて行動することができる。
- ・防犯、防災など、危険を察知して自ら判断し、迅速に行動することができる。
- ・校内の危険物や破損等、危険を察知した場合、危険を回避し、すぐに教員等に報告することができる。

※教員の取り組み

- ・生徒、教職員等の新型コロナウイルス感染症感染防止に向けて、最大限の配慮を心がけ、感染防止を鑑みた教育活動の企画や実施等を行う。
- ・防犯、防災等の避難訓練を含めた、あらゆる状況を仮定した危機管理への啓発活動を行う。
- ・校内の危険物等について迅速に対応を行う。
- ・生徒の活動などについても注意をはらい、安全な教育活動への啓発を図る。

**②基礎・基本** ～凡事徹底とスマホ、ICT関係の情報モラルの意識啓発～

○目指す生徒像

- ・あいさつ、掃除、ルール（時間厳守、人権意識など）などの基礎基本を大切にして、自分で考えて実行することができる。
- ・情報モラルについての意識を高め、適切に判断、行動等ができる。

※教員の取り組み

- ・登下校時の挨拶、日々の声かけ、チャイムと同時に授業開始、授業開始終了の挨拶、教室等の整理整頓等、凡事徹底を図る。
- ・生徒全員で協力して、掃除に取り組む姿勢を養う。
- ・情報モラル等の啓発活動の充実を図る。

**③支援教育** ～生徒一人ひとりの状況に応じた適切な対応や学校全体での情報交流、小学校との連携の充実～

○目指す生徒像

- ・生徒の個々の課題に応じて、成功体験を積み重ね、できる喜びを体感することができる。

- ・生徒間のコミュニケーションを深め、協力して取り組むことができる。

(インクルーシブ教育の視点での生徒間交流)

#### ※教員の取り組み

- ・個々の生徒の成果と課題を見極め、個別の支援計画等に基づいた、きめ細やかな対応を行う。(支援学級担任)
- ・支援学級担任と通常学級担任が密に連携し、個々の生徒の状況に応じた適切な対応を行う中で考える力を養う。また、令和5年度から配置された通級指導教室担当教員、支援教育補助員との円滑な連携を図る。
- ・保護者との連絡を密に図り、進捗状況を含めて、丁寧に情報交流を行う。
- ・支援学級の学習内容の充実を図り(個別対応、集団指導、行事など)インクルーシブ教育の視点での啓発を行う。
- ・生徒の興味・関心・意欲を高めることができる教材等の工夫を行う。(個に応じた教材の開発)
- ・通常学級在籍生徒の中にも支援を要する生徒が在籍しており、きめ細やかな対応が必要であるため、支援学級担任と通常学級担任が連携し、学校全体の視点を見据えた指導を行っていく。

#### ④組織的な生徒指導体制 ~小さな変化を見逃さず、初期対応を大切にした組織的な生徒指導の充実~

##### ○目指す生徒像

- ・学校生活に楽しさややりがいを見出し、充実した学校生活を送ることができる。  
(常に前向きに取り組むことができる。)
- ・人権意識を高く持ち、人として正しく行動できる。(他者理解を図り、善悪の判断ができる。)
- ・人とのコミュニケーションを円滑に図ることができる。  
(自己と他者の違いを認め、協力して取り組むことができる。)

#### ※教員の取り組み

- ・生徒指導主事、生徒支援 co を中心とした組織的な取り組みを行う。  
(進捗状況も含めた丁寧な報告・連絡・相談)
- ・事案発生時は、生徒指導主事と学年生徒指導担当(状況に応じて管理職も入る)が中心となり、学年会等(重要案件は学校全体)で方針を検討し、対応にあたる。(事案対応の学年会は、管理職も交えて校長室で実施する。)
- ・関係諸機関等との連携を深め、保護者や家庭等への支援を丁寧に実施する。(役割を明確にした取り組み)
- ・いじめ防止も含めた人権意識の醸成のため、道徳教育を始め、教育活動全体を通して、生徒の意識啓発を図る。

#### ⑤小中一貫 ~円滑な小中連携による9年間を通した一貫性のある教育~

##### ○目指す生徒像

校区小学校(招提小・平野小)の児童と積極的な交流を行い、協力して取り組むことができる。

#### ※教員の取り組み

- ・招提中校区 小中一貫事業の充実を図る。  
教員間の日々の連携、授業交流、小中一貫担当者会議、夏季小中研修等の充実を図る。  
(一人ひとりの児童生徒の状況等を踏まえた綿密な情報交流を行う)

#### ⑥情報発信(取り組みの見える化)

~学校教育活動の積極的な情報発信等による保護者・地域等との連携の充実~

##### ○目指す生徒像

- ・生徒間の話し合いなどの要点をまとめて、iPad やその他様々な手法で適切に発表することができる。
- ・授業中の成果物等を生徒間で積極的に交流することができる。

#### ※教員の取り組み

- ・生徒のプレゼンテーション力の向上を図るため、発表する機会を適切にもち、賞賛の声かけや指導助言等を行い失敗を恐れず、発表することができるようにサポートする。

- ・生徒の成果物等を積極的に掲示し、学校教育活動の見える化を図る。  
また、生徒の自尊心を高めるための掲示物や学級、学年、学校等への帰属意識を高めるための掲示物等の工夫を図る。
- ・教室の掲示物については、ユニバーサルデザインの視点から生徒の集中力を妨げない工夫を行う。
- ・学校からの発信物の充実を図る。(学校、学年、学級、分掌、係など)
- ・学校ホームページによるタイムリーな情報発信を行う。 ・ミルメール等を活用した、緊急対応等を迅速に行う。

**⑦教員の服務遵守** ～公務員としての服務遵守の意識啓発を図り、円滑な業務を遂行する～

※教員の取り組み(人権、体罰、ハラスメント、個人情報等、不祥事予防に注意する)

- ・勤務時間中の職務への専念(私的な行動等の禁止)
- ・勤務時間中の喫煙の禁止
- ・ハラスメントの防止(対生徒 教職員間のパワハラ、セクハラ等の防止)
- ・3手当(通勤・住居・扶養)の適正な実施を行う。
- ・その他、不祥事防止について取り組む

**⑧業務改善** ～業務改善への意識啓発により、業務の効率化を図る。～

**目的** 教員がしなければならない仕事をいかに効率よく進めるか

- ・ワークライフバランスの視点から自身の健康に留意し、心身ともリフレッシュした状態で業務に取り組む。
- ・業務の効率化を図り、生徒と対峙する時間を捻出する。(仕組みを変える)  
仕組み化しやすい仕事はなるべく短時間でミスなく済ませる→アップデートしていく  
仕組み化しにくい仕事に時間をを使う→子どもとの関わりの時間を増やす

**取組の視点** ※まずは身近にできることから始める。(年度の途中からでも始める。効果のない場合はやめる。)

- ・時間短縮:あらゆる業務の時間短縮を心がける。→心身ともにリフレッシュした状態で余裕をもって生徒に対応できる。
- ・効率化:作業の手順を見直したり、無駄な工程を省いたりなど、業務の時間短縮を図る。(簡略化)  
誰が何度やっても効率よくミスなく一定の質を保って業務を終わらせるようにする。(マニュアル化)
- ・質の向上:取組み方法を見直し、常に質の向上を心がける。
- ・ミスの防止:作業方法や手順などを見直したり、複数点検したりするなど、システムの改善を図る。(二度手間をなくす)
- ・コスト削減:必要なものだけ購入する。また、機能と値段を比較し、コストパフォーマンスの視点を持つ。
- ・取捨選択:無駄むらをなくす。本当に必要なものだけ取り組み、不必要なものはやめる。

**提言方法**

(意見を聞いてリスト化する→それを増やしていく→課題の見える化を図る→最適化された手段をとる)

- ・教職員一人ひとりからの提言
- ・学年、校務分掌、教科など、各担当からの提言

**発信方法**

- ・業務改善推進委員会から随時、好事例を発信する。
- ・大きいことは全体で協議し、小さいことはすぐに取り入れる。

◎昨年度、業務改善推進委員会からの提言を受け、校務分掌等、数点の業務改善を実施した。

本年度も日常業務等を見極め、積極的な推進を行う。